

トピックス

郵便創業150年記念事業の記録

井村 恵美

はじめに

2021年度は、郵便創業150年⁽¹⁾を記念して日本郵政グループ⁽²⁾を中心に切手の発行や関連施策が展開された。しかしながら施策名称については、100年、120年記念等で使われてきた「郵便創業」のほかに「郵政創業」「郵便制度」といった複数の名称が存在したため、その使い分け理由について、郵政グループ内外から当館あてに照会が相次いだ。このことから、150年施策に複雑な印象を与えたといえる。さらにコロナ禍⁽³⁾で記念事業の予定変更や規模の縮小などもあったため、本施策概要について、一元化して取りまとめる必要性を感じた。

そこで本稿では、これらの情報を体系化し後世につなぎたいという考えに基づき、まず過去150年間に企画された郵便創業に関する記念施策の歴史を俯瞰するとともに、今年度の施策展開（創業150年に関する社史の刊行、切手・貨幣の発行、周知宣伝の方法、「日本国際切手展2021」などの関連施策）に関して総括し、記念事業の目的と結果を顕彰する。

そのほか、各施策には郵政博物館の収蔵資料が数多く活用されたことから、当館が開館以降120年に渡って取り組んできた郵政資料の保存の意義と未来についても紹介することとしたい。

1 過去の創業記念事業

(1) 50年記念

「郵便創業」を記念する事業で最初といえるのが、1921（大正10）年4月20日の郵便創業50年を記念した施策である。事業名称は、「通信創始50年記念」だが、切手【図1、2】やはがきの発行名称は「郵便創始50年記念」となっており、今回のように、切手等の発行名称と事業名称を使い分けている。郵便創業から50年の節目を迎え、通信事業を担う通信省挙げての一大イベントとして、1919（大正8）年から2年をかけて計画され、記念日当日には、帝国ホテルを貸し切り、首相の



【図1、2】「郵便創始50年記念」3銭、10銭、1921（T10）年4月20日発行

1 1871年4月20日（明治4年3月1日）を郵便創業の日として、現在4月20日を「郵政記念日」（旧・通信記念日、1958年～2001年は通信記念日に戻す）とするほか、1958（昭和33）年以降は郵政記念日を含む日を「切手趣味週間」（1947年～1957年は11月に実施）として、毎年特殊切手を発行している。

2 2007年10月1日、郵政民営化関連法によって日本郵政グループは日本郵政(株)と日本郵便事業(株)、郵便局(株)、(株)ゆうちょ銀行、(株)かんぽ生命保険の5社で出発したが、2012年に郵便事業(株)と郵便局(株)が統合となり現行の4社で運営されている。“郵政民営化法の改正でこうなる”。日本郵政。

<https://www.japanpost.jp/corporate/milestone/privatization/index02.html>, (参照2022-02-04)

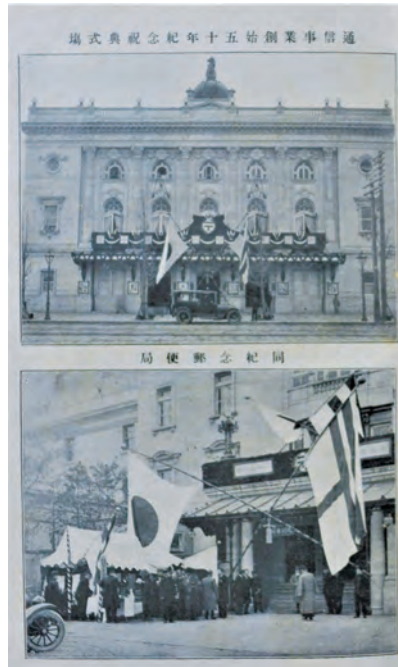
3 新型コロナウイルス感染症（COVID19/coronavirus disease 2019）

原敬、各国の大使の列席のもと盛大な中央式典【図3】が開催され、地方各局でも祝賀、表彰などが挙行された。そのほか、記念切手・はがき及び記念切手帳⁽⁴⁾の発行、『通信事業50年史』の編集、殉難録の作成、功労者への銀杯の調製が行われた。

当時の盛大な式典について、同年4月号、5月号の『通信協会雑誌』に詳細が記録されている。その中で、当館の前身である通信博物館が提供した郵便と電信・電話の創業期の資料が展示されている記述があり、当時から過去の記録=収蔵資料が人々に懐かしさを伝え、過去を振り返り顕彰するための重要な役割を果たしていたことがうかがえる⁽⁵⁾。

[引用]

場内の設備をと一巡する、まず表玄関の衝き当りには参考品が陳列してある。五十年前の郵便函（書状集箱）、集配人模型、さては集配用の黒胴乱などにありし昔を偲ぶ人も多からう。又時計の盤面を覗くやうにして電報を受信するブレゲット式の回針指字機（現・国重要文化財指定品「ブレゲ指字電信機」—引用者注）や、当初のガワベル電話器（現・ガワーベル電話機）なども、今こそ考古の料となって居るが、日新文明の啓示として、寧ろ魔物扱ひされた当時を想ひ起こすと、今日の祝典に一段の感興を覚ふる。



【図3】 帝国ホテルでの式典、1921（T10）年4月20日（『通信協会雑誌』5月号/第155号口絵より）

(2) 75年記念

郵便創始75年は、戦後直後であり、連合軍総司令部（GHQ）から切手図案の禁止事項の指令を受けたこと、通信省の再発足を経ての切手の発行であったため、「郵便創始75周年記念」の切手は1946（昭和21）年12月12日となった。意匠は、駅鈴と菊花（15銭）、前島密像（30銭）、竜50文切手（50銭）、通信の象徴（1円）の4種と小型シート1種【図4】が選ばれ、名称は「郵便創始」、「記念」は「記念」に表記を変更している。



【図4】 小型シート「郵便創始75周年記念」1946（S21）年12月12日発行

(3) 80年記念

郵便創始80年は、1951（昭和26）4月14日に小型シートで発行された「郵便創始80周年郵便週間記念」の切手【図5】で、通称で第1次動植物国宝切手といわれる新通常（普通）切手の前島密1円を4枚組み合わせたものになっている。

ちなみに、75年、80年については戦後の復興期でもあり、大掛かりな記念事業は行われていない。



【図5】 小型シート「郵便創始80周年記念」1951（S26）年4月14日発行

4 「郵便創始50年記念」切手4種（1銭5厘、3銭、4銭、10銭）、記念はがき2枚1組（10銭）

5 通信協会編「中央祝典の概況」『通信協会雑誌』第155号（5月号）、通信協会、1921年、105頁。

(4) 100年記念

郵便創業100年を迎えた1971（昭和46）年4月20日の「通信記念日」は、特に記念すべき年として「第38回通信記念日」と合わせて郵便創業100年を祝う祝賀行事が全国で実施された。中でも中央式典は、皇太子殿下・妃殿下（現・上皇陛下、上皇后陛下）ご臨席のもと帝国ホテルで盛大に執り行われている。

記念切手は、全国の児童から郵便をテーマにした図案を募集したもので、郵政大臣賞を受賞した「ポスト」「郵便配達」「鉄道郵便」【図6～8】の3作が採用され、当時盛んに報道され、話題を呼んだ。



【図6、7、8】 特殊切手「郵便創業100年記念」1971（S46）年4月20日発行（ポスト、郵便配達、鉄道郵便）

そのほか郵便にゆかりのある3カ所⁽⁶⁾に記念ポスト（特殊大型郵便差出箱）が配備された。

特筆すべきは、関連事業として1966（昭和41）年に編集事業が決定した『郵政百年史』の編纂プロジェクトが上げられる。約5年の歳月をかけて製作され、『郵政百年史』1冊のほか、公文書や文献、歴史写真などを収めた全30巻、1万6000頁に及ぶ『郵政百年史資料』が刊行された。収録内容は創業期から1970（昭和45）年までの郵政3事業と電気通信、電波関連に及ぶ大著であり、これ以降の編纂事業の土台となっている⁽⁷⁾。

また、編纂に関わる基礎資料は当館に収蔵されていたものの、長年整理されていなかったが、近年分類作業に着手しており、今後の郵政事業史に関する調査研究の一助として活用が期待される資料群の一つである。

記念事業の名称は、このときから「郵便創業」が採用されている。

(5) 120年記念

昭和から平成となって間もない1991（平成3）年4月20日は「郵便創業120年」を記念した切手展を開催したほか、記念ポスト（特殊大型郵便差出箱）の設置が行われた。切手は特殊切手「切手趣味週間」（郵便創業120年）として2種類の意匠で発行されている。ただし、創業120年の文言が確認できるのは、単片や小型シートではなく、シート切手の隣り合う切手の印面と印面との間の空白部分「ガッター」【図9】のみに登場する。

そのほか、既刊の『郵政百年史』を継ぐものとして、120年の歩みをさらに顕彰するため、『郵便創業120年の歴史』⁽⁸⁾を編纂・刊行している。郵便事業を取り巻く社会・経済・生活・文化的

6 郵政省前、創業時の郵便役所があった日本橋郵便局前、日本銀行大阪支店前に設置。

7 郵政省編『郵政百年史』通信協会、1971年。郵政省編『郵政百年史資料』全30巻、吉川弘文館、1968～1972年。

8 郵政省郵務局郵便事業史編纂室編『郵便創業120年の歴史』ぎょうせい、1991年。

視点から総合的にとらえ、日本近代史の中で果たした役割を歴史的に位置づける目的⁽⁹⁾で第一部を通史、第二部を編年史の形式で構成、カラー図版を多用した仕立てになっている。



【図9】 切手趣味週間「郵便創業120年」1991（H3）年4月20日発行（シート部分）

(6) 140年記念

切手の発行は、これまでどおり切手趣味週間に合わせて「郵便創業百四十周年」と表題が付くかたちで、2011（平成23）年4月20日に発行され【図10】、切手趣味週間のテーマである切手の「美しさ」「芸術性」に加え、郵便の記念となる意匠が採用となった。3種及び耳紙の図柄⁽¹⁰⁾は、創業期の姿を印象付けるものとしていずれも当館の収蔵資料より選出されている。

その他の施策に関しては、3月11日に発生した東日本大震災⁽¹¹⁾の影響もあり、多くの施策は自粛となった。当館（旧・通信総合博物館）では、同じく震災の影響で一時閉館していたが、時期をずらして郵便創業140年記念の一環として特別展「宮廷衣裳の美～切手で旅する「雅」の世界～」を開催している⁽¹²⁾。



【図10】 切手趣味週間「郵便創業百四十周年」2011（H23）年4月20日発行

2 郵便創業150年に関する記念事業

(1) 社史の編纂・ダイジェスト版の発行

郵便創業150年の施策で最も早い動きは、社史編纂のプロジェクトである。2013（平成25）年9月1日、日本郵政(株)広報部に、社史編纂室が設置され、社員のほか、外部有識者の協力も得て編纂が行われた。1,000ページ程度のものとする事とされた本編は、2022（令和4）年3月に発行される予定であるが、150年の感謝の印の記念品として150年を迎える2021（令和3）年4月20日の時点でダイジェスト版を発行して配布することと

され、『すべてを、お客様のために。一郵政百五十年のあゆみ―』【図11】が製作された。ダイジェスト版は、郵便局でのお客様の閲覧に供されたほか、郵政記念日の受賞者、グループの

9 前掲書、小野沢知之「『郵便創業120年の歴史』の編纂に当たって」、巻頭。

10 「郵便ノ使音吉」豊原国周、「開化幼早学門」より「空飛ぶ鳥の早飛脚」梅堂国政、「東京開化名所 四日市郵便役所」歌川広重、うちわ絵「はがきを投函している少女」（部分・作者不明）。標記は当館資料名称で記載。

11 東日本大震災は、2011年3月11日14時46分頃に発生。三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、深さ約24kmを震源とする地震。“特集東日本大震災”。内閣府。http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h23/63/special_01.html。（参照2022-02-04）

12 会期：2012年1月3日～2月26日、場所：通信総合博物館、主催：日本郵政株式会社郵政資料館、協力：青梅きもの博物館

取引先等に配布された。同年開催の「日本国際切手展2021」⁽¹³⁾等で来場者への配布も行われた。

(2) 特殊切手の発行

これまでどおり、切手趣味週間に「郵便創業150年」と題した切手【図12】⁽¹⁴⁾を発行したほか、今回、10年ぶりに日本での開催となった「日本国際切手展2021」では、「郵便150年 新たな可能性へ。」をスローガンに掲げて展開しており、同展の開催期間中にも150年を冠した切手【図13～15】の発行が行われた。[表1]のとおり切手趣味週間「郵便創業150年」(2021.4.20発行)と、「日本国際切手展2021 郵便創業150年切手帳」のうち、通常版小型シート1種と特別版小型シート2種一式(2021.8.25発行)の3種が特別に発行されたことになる。

そのほかにフレーム切手【図16】も複数発行されたが、記念商品に組み込まれて発行されたものもあり、これらは性質の違いから[表2]に記載した。



【図11】『すべてを、お客様のために。— 郵政五十年のあゆみ—』、日本郵政(株)、2021(R3)年4月20日発行

【図12】 切手趣味週間「郵便創業150年」
2021(R3)年4月20日発行



【図13、14、15】「日本国際切手展2021 郵便創業150年切手帳」のうち、通常版小型シート1種と特別版小型シート2種一式 2021(R3)年8月25日発行 画像：日本郵便(株)報道発表資料より

13 日本での開催は、2011(平成23)年の開催以来10年ぶりとなる。コロナ禍による緊急事態宣言下での開催となり、名誉総裁の高円宮妃殿下、黒岩神奈川県知事らの祝辞は収録、来場者は予約制とした。海外からの渡航制限等があったため、競争展示作品については、国際切手展(FIP後援・FIAP賛助)から第37回アジア国際切手展(FIAP後援・FIP認定)に変更となった。

14 切手発行時の当館監修では、「東京名所江戸橋郵便局風景」(シート右上)の作者を楊堂玉英としたが、その後の調査で小林幾英であることがわかった。

No.	種別	画像	発行名称	額面等	意匠	発行年月日	印刷	備考	収蔵・著作	発行部数	切手デザイン
1	特種		切手趣味週間・郵便創業150年	84円郵便切手(のり式)	(1)3～(6)810「郵便取扱の図」1～7 (2)7(9)「郵便現業絵巻」1～3	2021/4/20(火)	グラビア6色・凹版1色	今年は、郵便創業150年にあたることから、郵便にちなんだ作品、日本画家・柴田真哉の絵図「郵便取扱の図」および日本画家・久保田米徳の絵巻「郵便現業絵巻」を題材	郵政博物館	600万枚(60万シート)	玉木明
	切手帳		通常版切手帳(切手趣味週間・郵便創業150年)	通常版切手帳	(1)3～(6)810「郵便取扱の図」1～7 (2)7(9)「郵便現業絵巻」1～3	2021/4/20(火)	—	—	郵政博物館	25,000部	玉木明
2	切手帳		日本国際切手展2021 郵便創業150年切手帳	通常版切手帳	(1)「見返り美人」菱川師宣画 (2)「月に雁」歌川広重画	2021/8/25(水)	グラビア6色	世界初の和紙切手シート(シール式)を使用し、特殊切手の代表作である「見返り美人」等を題材とした切手を内包	東京国立博物館	6万部(6万シート)	貝淵純子
			通常版切手帳	切手帳	—		—	—	6万部(6万シート)	貝淵純子	
3	切手帳		日本国際切手展2021 郵便創業150年切手帳	特別版切手シート(シール式)	シート① (1)「当世美人合こしゃく娘(手紙を読む娘)」歌川国貞画 (2)・余白 「横浜郵便局開業の図(郵便報知新聞第557号)」	2021/8/25(水)	グラビア6色	〈シート①〉 日本国際切手展2021のシンボルマークを使用した「当世美人合こしゃく娘」と「横浜郵便局開業の図」を題材に使用。 シートに郵便創業150年を記念し、シリアルナンバー付。	郵政博物館	2万部(各2万シート)	貝淵純子
			特別版切手シート(シール式)	シート② (1)前島密(赤)(2)前島密(緑) (3)前島密(青)(4)前島密(紫) (5)前島密(桃)(6)前島密(黄)	〈シート②〉 近代郵便制度を創設し、日本近代郵便の父と呼ばれている「前島密」を各6色で表現。 シートに郵便創業150年を記念し、シリアルナンバー付。		2万部(各2万シート)	貝淵純子			
			特別版切手帳	切手帳	—		—	—	2万部(各2万シート)	貝淵純子	

▲ [表1] 「郵便創業150年」関連切手

※フレーム切手は含まない。
 ※表記は、日本郵便(株)報道発表資料を元に作成。
 ※対象資料は、当館収蔵。

(3) 記念貨幣の発行

150年の記念事業では、郵便に関する初の記念貨幣となる「郵便制度150周年記念貨幣」が発行された。「一万円金貨幣」「千円銀貨幣」のほか、記念商品として「郵便制度150年記念貨幣発行記念メダル」も製作された。

発行名称については、当初は切手と同じく「郵便創業」が検討されたが、協議・検討の結果、

発行等	日本郵便㈱	日本郵便㈱	日本郵便㈱	日本郵便㈱	日本郵便㈱
製作・販売等	株式会社郵便局物販サービス	株式会社郵便局物販サービス	株式会社郵便局物販サービス	株式会社郵便局物販サービス	株式会社郵便局物販サービス
製品名	オリジナル文具	郵便ポストピンバッジ フレーム切手セット	郵政創業150年&Honda MD 90郵政機動車50年 ミニチュ アモデル	オリジナルフレーム切手「郵 政創業150年—Since1871 郵便のある風景—」	オリジナルフレーム切手「郵 政創業150年—未来へつな ぐ郵便のある風景—」
解説	ハサミ（郵便柱箱、郵便差出 箱一号丸型）、文房具セット	郵政博物館収蔵の図画・写 真を使用し、郵政創業から現 代までのポストの変遷などを まとめたフレーム切手〔84円 切手（シールタイプ）5枚〕 ×1シート、ポストピンバッ ジ10種各1個、リーフレット 1部、特製ホルダー1冊約 207×297×厚さ17mm	郵便配達を支えたバイク、 HondaMD90郵政機動車を 1/24スケールで、現車を 3Dスキャンし、細部まで再 現したミニチュアモデル。背 景には、世界遺産・石見銀 山のある島根県太田市大森 町のポストがある風景を採用	フレーム切手（63円切手× 10枚）1シート。郵便外務 員を中心とした切手	フレーム切手（84円切手× 10枚）1シート。丸型ポ ストのある風景をテーマにし た切手
資料提供・ 監修等	—	郵政博物館	—	切手写真及び台紙：郵政博物 館（フレーム切手バックシ ート：栗田 聖士）	—
販売価格	5,900円（消費税・送料別）	5,900円（消費税・送料別）	5,000円（消費税・送料別）	1,650円（ネットショップの場 合送料別途）	2,130円（ネットショップ の場合送料別途）
数量	5,000個	5,000個	5,000個	—	—
販売・ 申込	WEB限定 4月1日～	WEB限定 4月1日～	WEB限定 4月1日～	64の郵便局および「郵便局の ネットショップ」4月1日～	64の郵便局および「郵便局の ネットショップ」4月1日～

▲ [表2] 「郵政創業150年」関連切手等

※フレーム切手含む。
※表記は、日本郵便㈱報道発表資料を元に作成。
※オリジナル文具以外の対象資料は、当館収蔵。

発行	財務省	財務省	財務省
製作者	独立行政法人造幣局	独立行政法人造幣局	独立行政法人造幣局
製品名	一万円金貨幣	千円銀貨幣	郵便制度150周年記念貨幣発行記念メダル
意匠（表）	我が国初のポストである書状集箱と郵便物搭載作業風景	郵便差出箱一号丸型と郵便物搭載作業風景	一万円金貨幣及び千円銀貨幣の表面
意匠（裏）	旧東京中央郵便局入口	旧東京中央郵便局入口	旧東京中央郵便局入口
解説	我が国初のポストである書状集箱を、明治20年代に描かれた「郵便現業絵巻第六図」を基に図案化した郵便物搭載作業風景とともにデザイン	昭和24年から実用化された郵便差出箱一号丸型を、明治20年代に描かれた「郵便現業絵巻第六図」を基に図案化した郵便物搭載作業風景とともにデザイン	一万円金貨幣及び千円銀貨幣の表面の図柄を配し、千円銀貨幣の図柄部分にはカラー印刷
画像提供・ 監修	郵政博物館	郵政博物館	郵政博物館
品位	純金	純銀	純銀
量目	15.6g	31.1g	160g
直径	26mm	40mm	60mm
数量	20,000枚	50,000枚	3,000枚
販売価格	145,000円（消費税・送料込）	11,700円（消費税・送料込）	32,000円（消費税・送料込）
申込期間	4月21日～5月11日消印有効	4月21日～5月11日消印有効	4月21日～5月11日消印有効
備考	独立行政法人造幣局の通信販売	独立行政法人造幣局の通信販売	独立行政法人造幣局の通信販売

▲ [表3] 「郵便制度150周年」記念貨幣等

※表記は、財務省報道発表資料を元に作成。
※対象資料は、当館収蔵。

「郵便制度」が採用されることとなった。

(4) 関連施策～「日本国際切手展2021」を中心に～

① 郵政博物館（公益財団法人通信文化協会）

郵政博物館では、3つの施策を展開した。

3月末から郵便創業150年記念のパネルと「1円切手でおなじみ前島密と切手の秘密」と題

した大型の展示パネルを製作し、郵政博物館（東京・本館）、分館の前島記念館（新潟）、坂野記念館（岡山）、沖縄郵政資料センター（沖縄）のほか、通信文化協会地方本部（13か所）、「日本文明の一大恩人 前島密翁を称える会」（神奈川県）に配布し、日本郵便(株)支社との連動施策を全国で展開した。

そのほか、本館では、4月20日から7月18日まで、創業期の郵便資料を中心とした郵便創業150年記念企画展「日本郵便の誕生」を開催している。

② 全国の郵便局と当館のサービス

全国の郵便局では、「郵政創業150年」を掲げ、地域の図書館や博物館などとの展示や催事のほか、郵便局ロビーを会場とした展示施策、記念品の配布を行った。中でも当館が貸し出す「郵政博物館貸出キット」のうち、明治時代の制服（複製）や新設の「郵便の今昔」の展示パネルが人気を博し全国から貸出の依頼が相次いだ。特に創業の地である日本橋郵便局の特別展示では、歴史資料の裏付けや展示パネルの製作のための画像提供などを行った。

③ 日本国際切手展 2021 (PHILANIPPON 2021)

「郵便150年 新たな可能性へ。」を開催テーマに、世界の郵趣コレクションの展示および各種イベントを通じて「日本における郵便・郵趣の普及」と「郵趣を通じた文化交流および国際親善」を図ることを目的として、2021（令和3）年8月25日から同年8月30日までパシフィコ横浜で開催された。今年度は、郵政記念日の中央式典などがコロナ禍の影響により相次いで中心となったため、本展が式典を伴う最も大規模な施策となった。

会場内では、国内外から集められた切手類の競争作品の出品のほか、郵便創業期の資料など、当館収蔵品約400点⁽¹⁵⁾と日本郵政(株)等の展示品による「郵政創業150年ブース」【図16、17】が会場中央に設置された。これまでの国際切手展と異なり、主催国の郵便の歴史が大きく紹介される構成となっており、創業150年を印象付けるものとなった。



【図16、17】日本国際切手展2021「郵政創業150年ブース」のようす（2021（R3）年8月24日執者撮影）

(5) 関連施策～日本郵政グループ～

日本郵政グループでは、関連施策として日本郵政のホームページに「郵政創業150年」⁽¹⁶⁾の特設ページを開設し、各種関連施策についてその一部を紹介している。

まず、「郵政創業150年」をイメージするキービジュアル「小さな花」「〒マーク」「郵政創業

15 当館収蔵資料のうち、切手、葉書、制服等のほか、画像や記録映画などを出品した。そのほか、「皇室展示」では、名誉総裁である高円宮妃殿下のコレクション、国立印刷局とともに当館の皇室献上品などの貴重資料51点が展示された。

16 “郵政創業150年”日本郵政。郵政創業150年-日本郵政 (japanpost.jp)。 (参照2022- 2 -13)

150年」の3つをセットにしたロゴマークについて情報が提供されており、イメージ動画により端的に150年の歴史と今回の施策全体のコンセプトをわかりやすく伝えることに成功している。キービジュアルとして登場する「小さな花」については以下のとおり紹介されている。このマークが、全国の郵便局やポスト類に設置されたステッカー【図18】などに刷り込まれ、約1年をとおして周知宣伝が展開された。

[引用]

1871年の創業以来、日本郵政グループはお客様の生活に寄り添い、事業の幅を拡げながら、地域のお客さまと一緒に成長してきました。地域に咲く様々な花のように、少しでもお客様のきもちのそばに寄り添って、心を和ませるお手伝いをさせていただきたいという想い。郵政事業そのものや社員の多様性、商品・サービスをご利用いただくお客様の多様性を、これからも大切にしていきたいという想い。そういった想いを、地域にそっと咲く花で表現しました。

ホームページ内にある施策情報は以下の①～⑥が紹介されている。

①切手に映る歩み

竜文切手など歴代切手とともに、絵解きで歴史を紹介

②150年分のありがとう！みんなの郵便局【図19】

6月13日、新潟県上越市を皮切りに、全国8か所で開催した児童を対象とした体験施策

③郵政創業150年×スポーツ（郵政創業150年特別企画）

日本郵政がサポートする女子陸上部、車いすテニス、バスケットボールなど6種目の紹介

④『すべてを、お客様のために。—郵政150年のあゆみ—』

社史ダイジェスト版のPDFファイルによる閲覧ページ

⑤郵政創業150年記念ポスト【図20】

東京中央郵便局に設置された記念ポストの情報

⑥関連情報

記念貨幣の発行や郵政省時代の郵便外務員等の画像など（当館提供）



【図18、19、20】 郵便ポストに取り付けられた郵政創業150年のロゴシール（撮影：行徳郵便局前ポスト）、チラシ「150年分のありがとう！みんなの郵便局 in 上越」、郵政創業150年記念ポスト（執者撮影）

ただし、150年施策に当館が携わったものだけを振り返っても、日本郵政(株)、日本郵便(株)、

(株)ゆうちょ銀行、(株)かんぽ生命保険、その他グループによる商品開発、全国の郵便局での施策展開などについての掲載はない。また、各社横断的な情報共有をスムーズにできるようなプロジェクトチームがなかったことが、情報の一元管理が困難な状況を生んだように思える。これは、2007（平成19）年10月1日の郵政民営化・分社化以降に生じているグループ間をつなぐ情報共有の少なさが、要因の一つになっているのではないだろうか。

一方で、当館が持つ150年間の資料・情報の蓄積が、各社をつなぐ架け橋となり施策展開を支える一助となったといえるものの、郵政省以降の郵政の組織の変更に加え、関連機関だった当館においても組織改編⁽¹⁷⁾や博物館移転⁽¹⁸⁾等により保存整理作業の遅れなどが生じており、安定的な資料保存の計画は喫緊の課題と言える。

おわりに～新しいプロジェクトのスタート～

当館は通信・郵政事業に関する資料を収集・保存し調査を行う責務がある。ただし、郵政民営化以降（現業）については、前述のとおり分社化や組織改編の影響により、資料や情報が定期的に入ってくるルートがなかった。そんな中、この150年の年の最後に、資料収集の試験運用の道が開けた。きっかけは、150年施策を担った日本郵便(株)総務部の「今回、施策展開をとおして、自社では過去の情報を得ることが困難だった」「50年、100年先に何が遺せるのか」という、同社の危機感と当館との同じ悩みが出発点となっている。

まずは試験運用として、ポスターなど数種の資料から始め、以下2点に重点を置いて展開を始めている。

- ①50年、100年先を見据えた情報収集の基礎づくり
- ②郵政省以降の約15年の記録の補填と今後

試験運用に際しては、当館、日本郵便(株)、そして資料の収蔵先となる日本郵政(株)の三位一体で行っており、1月からは東日本大震災の映像記録、周知宣伝物（ポスター等）など一つずつ資料が集まってきている。

150年の事業のラストに新しい長期プロジェクトが立ち上がったことは、当館にとって大変重要な一歩となった。

社史（ダイジェスト版）『すべてを、お客様のために。一郵政百五十年のあゆみ』には、最終章で「次の50年、100年に向けて」と締めくくられている。

次の50年、100年に向けて――。後世に郵政事業の情報を遺すことで、50年、100年後にどのような顕彰がなされるのだろうか？

日本で唯一の通信の博物館として、郵政事業を担う企業博物館として、情報の蓄積とデータ整理、調査研究の重要性を、今回の郵政創業150年の施策をとおして、改めて強く感じている。

（いむら えみ 郵政博物館副館長（学芸員））

17 郵政省ののち、総務省郵政事業庁（2001.1.6～2003.3.31）、日本郵政公社（2003.4.1～2007.9.31）、日本郵政(株)（2007.10.1～現在）などの変遷に伴い、当館の運営主体も変更。現在は、日本郵政(株)の所蔵品を管理、公益財団法人通信文化協会が郵政博物館を運営（2012.4.1～2022.3.31）している。2022年4月から再び日本郵政(株)の直営出の運営となる。

18 2014.3.1から現地に展示場を移転して運営。